

◆俳句

十二支雜俳抄

—蛇足以上、川柳未滿

三人が笑へば虎は苦りきり

いなぼとて剥がれようとはしら兎

二番鶏たまらず髯がしゃくり上げ

骨のあるくらげが猿を待つてゐる

齒の伸びに仁木にっきはとんと気がつかず

富永明夫 (高2回)

●とみなが・あきお

東京生まれの疎開生。東大、電気通信大などでフランス語教師を務めたが、今は隠居。ふだん碌に作句もしないのに、年賀状にその年の十二支に因む川柳もどきを添えるのは三十余年の習い。野暮は承知で蛇足を加えるなら、初句は「虎溪三笑」、次句は「因幡の白兔」、三句は「ペテロのイエス否認」に拠る。四句は「猿の生き肝」説話、終句は「先代萩」仁木(鼠)の当惑。

向島

春風やかなた荷風の向島

荒東風あれごちや船跡を追ふ鷗うどち

燕来る風が紡ぎし波の綺羅

さざ波の放つひかりや入彼岸

世を離るごと墨堤の遅桜

古畑恒雄 (高3回)

●ふるはた・つねお

昭和8年、飯田市扇町生まれ。昭和58年俳誌「岳」(主宰・宮坂静生、松本市)同人、平成30年結社賞(前山賞)を受賞。現在無鑑査同人、現代俳句協会会員。平成28年に句集「林檎童子」(角川学芸出版)上梓。

浅草寺

賓頭びんずる盧を撫でたる夜の冷奴

仲見世とに外つ国人の夏怒濤

賽銭は人にはつしとはたた神

角取れし夫婦狛犬雲の峰

緑蔭に夢声引きゐる弁士塚

林 璋 (高5回)

●はやし・あきら

高森町市田出身。東京大学理学部卒業。三井物産(非鉄金属)社友。平成18年よりNHK俳句、NHK短歌に投稿を始める。昨年、俳句結社「河」主催で「浅草寺」吟行した際に詠んだ5句。このうち1句に鎌田俊先生の特選を、他の1句に「俳句」(KADOKAWA)で今井聖先生の推薦を頂いた。